

グローバルに闘える日本経済を創るために

■日時：平成27年11月26日(木) 13:00~14:30

■会場：ホテルグランヴィア和歌山 6F ル・グラン

■講師：慶應義塾大学 総合政策学部教授 竹中 平蔵 氏



世界は2つの大きな要因で、今もどんどん変わっています。1つは東西冷戦構造が終わり、それまで27億人だった自由社会の人口が70億人になったこと。マーケットが広がったのです。

同じ時期に、もう1つの大きな変化、デジタル技術が生まれました。デジタル技術は情報を数字に変え、瞬時に遠くへ送ることができます。グローバルな地球とデジタルな技術が組み合わせり、フラット化する世界が生まれました。フラット化した世界は新たなビジネスを生み出します。

今、Airbnbという民泊が世界的に展開しています。インターネットを通じて友達になり、友達に部屋を貸す。そういう理屈です。また、Uberという会社は日本でいう白タクです。この会社は企業価値が5兆円になりました。トヨ

タの4分の1です。こういうことが私たちの目の前に起きています。

翻って、私はアベノミクスの考え方は100%正しいと思います。アベノミクスの3本の矢の1つ、デフレの終息はまだまだ道は遠いけれども、成果は現れつつあります。また、公共事業で景気を浮揚し、2020年までに財政再建をする。これを機動的な財政政策、第2の矢としました。当面の景気はある程度よくなりましたが、2020年までに財政再建できるかどうかはわかりません。

財政再建するには社会保障改革が必要です。今、日本は100兆円近い一般会計の3割強が社会保障です。しかも毎年1兆円ずつふえています。これを放置して財政再建はできません。所得のある人には年金をご遠慮いただくシステムをつくるのは当たり前の話です。

次の第3の矢、成長戦略がグローバルに闘える経済をどうつくるかと直結しています。

幾つかの例を申し上げます。まず、日本の法人税は実効税率35%と、世界の中で高い部類なので、31%まで下げることが決まりました。しかし、25%ぐらいにしなければいけない。もう一息です。

もう1つ、成長戦略の重要なポイントは規制緩和です。先ほどAirbnbとUberの話をしました。あの企業の経営者は若者です。いろいろな

人にチャンスを与えるのが規制の緩和です。しかし、この規制緩和は大変難しい。「岩盤規制」と呼ばれる強固な既得権益を持つ人が新しい改革を阻んでいるためです。

わかりやすい例が農業です。日本の農作物は素晴らしい。ところが、今の制度では普通の企業は農業に入っていけない。非常に厳格なルールになっています。もう1つ、みずからの芽を摘んでいる規制があります。この国では過去36年間、新しい大学医学部がつくられなかった。今度、36年ぶりによやく成田空港のそばに新しい大学医学部ができます。

人手不足の解消のため外国人労働者を受け入れると、治安を乱すと言われます。しかし、国民の37%が移民のシンガポールの犯罪率は、日本より低い。今度、日本で初めて特区を利用して外国人労働を受け入れることになりました。大阪と神奈川で家事支援に限ってこれが始まります。

規制緩和を活用した新しいビジネスの1つは、コンセッションです。空港は国が持っていますが、空港を運営する権利を民間に売却することをコンセッションといいます。この第1号が仙台空港で始まり、説明会に世界から140社が集まりました。その次に出てくるコンセッションが関空です。関空のコンセッションは、世界的に注目される大規模なコンセッションになります。

一方、特区で注目すべき分野は2つあり、1つはインバウンドです。日本のインバウンド観

光客は去年1,300万人になりました。ことしは2,000万人に近づきます。今アジアには5億人の中間所得層がいます。ASEANと中国の経済成長によって2020年には中間所得層の数が17.5億人になるという試算があります。その人たちがLCCを使って日本を訪れます。日本人も海外を訪れるでしょう。人の交流が今までとは違う次元で行われます。定住人口が減っている日本は、交流人口をふやせばよいのです。それは観光であり出張であり留学です。

もう1つ、チャンスを申し上げます。2020年のオリンピック、パラリンピックです。これを和歌山は活用しましょう。オリンピックの主催国はオリンピックまでにという「締め切り効果」が働きます。東海道新幹線ができたのはオリンピック開会式の9日前、羽田と浜松町のモノレールも数週間前にできています。警備会社もできたのも東京オリンピックのときです。

「改革は小事にあらず。しかし、改革は小事から生まれる」(アリストテレス)。オリンピック、関空のコンセッション。私は、世界がフラットになる中で、こういうチャンスを活用して和歌山の優れたものを世界に伝えていただきたいと思います。

最後に尾崎行雄(罌堂)の言葉、「人生の本舞台は常に将来に在り」を紹介します。特に若い人たちに前に進んでいただきたいし、我々はそれを大いに後押しをしたい。その言葉を私自身もかみしめて講演を終わります。

文責：(一財) 和歌山社会経済研究所

